

珈琲動向 Vol 22

NY

先物相場の9月の動きは、前月のトレンドを引継ぎ何度か150cts/lb割れを試すも、基本的には150~165cts/lbのボックス圏内の動きに終始しました。

ブラジルの天候相場が、珈琲相場の大きな方向性を握っていますが、それに加えて認証在庫の低水準での推移、相場安・産地通貨高に伴うブラジル農家の売り渋りが更なる需給タイト感を醸成しています。

このような状況下で、投機筋はショートポジションを積み上げており、相場は方向性を見出しづらい状況となっています。

今後の見通しとしては何よりもブラジル24/25クロープの開花に向けた9月末から10月中旬にかけての降雨が一つの肝になってきますが、最新の予報では9月末より纏まった降雨が予想されており、実際の状況には要注目です。

また米国の金利高が継続する見通しが発表されたことに伴い、産地通貨安が進行しブラジル農家を筆頭に農家の販売が徐々に積極化しています。

加えて、マイルドアラビカはコロンビアを中心に生産量は伸び悩むものの、それを上回る需要の減退、過去最大の国内在庫を抱える等、供給余力を確保している状況と、供給面ではポジティブな材料が並んでいます。

一方、今後の懸念材料としては認証在庫がいつ回復してくるかという点が挙げられています。

現在は今後ブラジル23/24クロープが次第に入着してくるという見通しに支えられ大きく材料視はされていませんが、実際の入着が遅延の懸念があれば、投機筋のショートカバーが加わって一気に情勢が変わる可能性もあり、今後の相場動向を占う上で要注意です。

LN

先物相場は引き続き高値圏を維持しており、2400~2600USD/MT内にて推移しました。

ブラジルコニロンの入着に伴い認証在庫は徐々に増加しているものの、ベトナム端境期で同国の国内在庫が枯渇・堅調な需要を維持という市場環境下で需給タイト感が意識されていることが主な要因となっています。

尚、ベトナム・インドネシアでは来クロープの減産が予想されており、ベトナムで収穫が開始してもなお高値圏での推移が続くことが予想されます。

当市場の次の注目材料は、エルニーニョ現象の影響に伴うコニロンの来クロープの生産量への影響をどう予想するかに移ってくると予想されます。

産地情報

ブラジル

ブラジルの生産地では、9月に入り更に暑さが増し、季節は冬にも拘らず 30℃を超える日が散見されました。

9月後半にかけて暑く乾燥した日が続いたことから、一時は若干の天候懸念が生じたものの、同月末にかけて漸く纏まった降雨が確認され、翌日には最高気温も 30℃を下回りました。同降雨により開花が誘発される可能性があるが、継続的な降雨が必要な為、今後の天候状況には引き続き注意が必要です。

尚、コーヒーの木にとって光合成の最適な温度は 24℃周辺。

それから 1℃上昇するごとに 10%光合成量が減少していき、34℃を超えると光合成がストップすると言われており、9月の暑さによりコーヒーの木がダメージを受けている可能性がある為、生産量への影響があるのか精査していきます。

ブラジルコーヒー輸出協会 Cecafe によると、2023年8月の合計輸出量は 3.35百万袋(60kg/袋)と、昨年同月比+33.3%を記録しました。

特にコニロンに関しては、昨年同月比 443%伸長しており、ベトナムロブスタの供給不安から全世界的なコニロンの需要の高まりを確認することが出来ます。

農家の販売進捗率も昨年と比較すると 7%ほど早まっています。

一方で、アラビカは昨年同月から 11.2%伸長しているものの、農家の販売進捗率としては昨年を 13%程下回っており、引き続き農家は売渋りの姿勢を崩していないと言えます。

直近の降雨により開花が定着したら、農家への販売プレッシャーが高まることが予想される為、販売進捗率も改善していくと見込まれます。

ブラジルのインフレ状況につき、8月の消費者物価指数は昨年同月比にて 4.61%上昇した。同数値はブラジル中央銀行の目標範囲(1.75%~4.75%)に収まっており、既に 6カ月連続で目標範囲内の上昇率を記録しています。

同状況を受けて、同国中央銀行は政策金利を 0.5%引き下げの 12.75%にすると決定しました。高金利が農業好調を背景に成長する経済の足枷になると見られていた為、利下げにより更なる経済活動の活性化が期待できる一方で、通貨レアルの下落を招けば、輸入品の価格が上昇し再び高インフレに繋がるリスクもあります。

コロンビア

先月に続き FNC(コロンビアコーヒー生産者連合会)の話題が尽きず、今回は今後の組織編制について発表がありました。

Bahamon 総裁は今後の組織体制の方針・目的について次の通り述べました。

「FNC をより効率的に運営し、コーヒー生産者へより良いサービスを提供するために、本部経費の 20%削減を目標に掲げる」。

この目標を果たすため、7つの管理職が廃止され、不要と思われる社交クラブや会員権の廃止等に関する経費削減指示が下りました。

また海外拠点の艇入れも始まり、今月は FNC アメリカ支社の代表である Juan Esteban Orduz 氏が退職するとのニュースが報じられました。

彼が抜けた後のポジションはそのままにし、残っているスタッフと FNC 本部が対応することになります。

なお、日本事務所については現時点では特に変更はなさそうです。

産地では 22/23 ミタカクロップの収穫が完了。

9 月も天候に恵まれた中、23/24 メインクロップの収穫が徐々に開始し、現在 8%まで進行中です。

エルニーニョ現象の影響で産地気温は徐々に上昇し、降雨量が減少していますが、23/24 メインクロップへの生産量へのインパクトは低いと予測されており、生産量は昨年と同水準の約 6.0-6.5 百万袋との予想。

NOAA(米国海洋大気庁) が発表する最新情報では、エルニーニョ現象の影響は 4-6 月頃まで続き、その後弱まる見通しと予測されています。

まだ断定的なことは言えませんが、12 月・1 月にエルニーニョ現象の影響が強くなると、23/24 ミタカクロップのチェリーの生育、ひいては生産量に影響を及ぼす恐れがあるため、今後の天候情報については引き続き注視していきます。

ペルー

23/24 クロップ (2023.3-2024.2) の収穫は、晴天が続く中で終盤を迎え、現時点で 83%程度まで進行。

品質は良好、農民の輸出業者への売りは 69%まで進行、昨年同時期比で 66%だったことから見ても、順調に売りが進行しているといつてよいでしょう。

年間生産量は、22/23 クロップ (2023.3-2024.2) の 360 万袋から、23/24 クロップ (2023.3-2024.2) は 400 万袋超えが見込まれます。

グアテマラ

2023/24 クロップは、先週は降雨も見られたが、例年と比べ、降水量はやや少ない様子。低地の一部では既に収穫の動きがあるが、高地の収穫は年末にかけてのため、今後の天候次第でコーヒーの実付きも変わってくるので、注視していきます。

ホンジュラス

23/24 クロップ は、先週はホンジュラス全土でまとまった降雨があり、2 回目の肥料撒布

がコーヒーの木に行われ、今のところ年末にかけて順調に推移しています。

ベトナム

22/23 クロップは需給逼迫感が続く中、ロブスタの農民から輸出業者への売りは約 99%まで進行、輸出業者は約 1%弱余りの玉(ギョク)を残すのみとなっています。

サプライヤーの間では、22/23 クロップの船積遅延の動きも出ており、次の 23/24 クロップ(2023 年 10 月以降)への船積みを持ち越し数量は約 2 百万袋となるとの見方が広がっています。

そうなれば、23/24 クロップ期首(2023 年 10 月頭)の需給バランスは▲約 2 百万袋からのスタートなるため、当面供給逼迫が予想されます。

23/24 クロップの収穫は 11 月から、船積みは 12 月から活発になることが見込まれるが、船積みが始まってもサプライヤーは 22/23 クロップからの船積み持ち越し分からの履行を優先せざるを得ないでしょう。

来年 2 月前半には、ベトナムのテト休み(旧正月)も控えており、その頃までは供給逼迫感が続く可能性を想定しておく必要があります。

先週、主要産地である Dak Lak 及び Dak Nong の情報では、同エリアでは 8~9 月にかけて適度な降雨を観測し、肥料価格の下落(前年比 25-30%)による施肥量増も下支えとなり、生産量は前年比 10%増が見込まれます。

現在、同エリアのコーヒーの木のチェリーは 90%は赤く実り、10%の未完熟(緑色)を残すのみとなっており、このまま順調にいけば、収穫は 11 月にかけてピークを迎え、12 月から輸出開始が見込まれます。

同エリアではコーヒーのインタークロップとしてドリアンが 7~10 年前から植えられ、生産性が向上する中、ドリアンのベトナム国内取引価格は 70,000~80,000VDN/kg (=US\$2,978~3,404/MT) である一方、コーヒーは需給バランスが平常時の国内取引価格は 55,000VDN/kg(=US\$2,340/MT)程度と言われ、ドリアンはコーヒーより儲かる構図となっています。

今後農民がコーヒーをやめて、ドリアンだけに生産を集約する動きが加速すれば、ベトナムのコーヒー生産量が減少する懸念も十分に考えられます。

エチオピア

エチオピアの国家的なニュースとして、同国の BRICS への加盟を取り上げたいと思います。

今年 8 月末に南アフリカにて開催された BRICS 首脳会議にてアルゼンチン、エジプト、イラン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦(UAE)と共に 2024 年 1 月より BRICS に新規加盟することが認められました。

これを受けて当同盟の規模は人口ベースで世界の約 46%、GDP ベースで約 37%のシェア

を誇る大規模な経済圏となりました。

加盟によって、BRICS 諸国の共同出資にて設立された新開発銀行(NDB)を通じた資金援助や緊急財政支援などを受けることが出来るようになり、こうした支援がエチオピアの財政状況の改善につながるのか、今後の行方に注目していきたいと思います。

産地では、地域によってはニュークロップの収穫が開始しており、今後 10 月~12 月にかけて本格的な収穫期を迎えます。

USDA(米国農務省)によれば 23/24 クロップの生産量は約 8.35 百万袋と昨対比で約 1%の増産が見込まれていますが、各サプライヤーの話によれば今年は雨季の期間が長引いており生産量へのダメージが懸念されているとのこと。

通常の雨季は 6-8 月だが、今年は 3 月から開始し現在でもまだ降雨が続いています。

これに伴い、開花数の減少、チェリーの落下等が確認されており、昨対比で減産になる懸念もあるようです。

今後の天候状況については要注意です。

尚、産地の価格に関しては、先月に比べて大きな修正は見られていませんが、ニュークロップの収穫本格化に伴い輸出業者の在庫販売が一気に進むことが予想され、今後価格が徐々に修正されてくると考えます。

9 月も終わりましたね。

大盛況に終わりました 「SCAJ2023」ですが、約 7 万人の方が来場され

「SCAJ2022」の来場者を上回りました

今回は、海外の方や、一般参加の方の増加が目立ちました。

季節も少しずつ、夏から秋へ移行し、珈琲のシーズンに突入して参りますね。

10 月に入り、お客様からのご注文数量も、9 月に比べ増加が実感されます。

各地で、コーヒーイベントも開催されており、楽しみな季節となりました。

気候変動や、世界の治安情勢の悪化、円安、など不安定な状況下ではございますが珈琲を通じて、平和や環境保全に微力ながら取り組みたいと思います。

10 月 1 日 (日) COFFEE MEETS 茨木市市役所前広場にて

参加企業社長様方の貴重なトークイベントがあり、こちらも大盛況でした。

